

5 多彩で個性ある市民文化と スポーツのまち

○は学識経験者による意見聴取会に付議した事業
（「第4章 教育委員会意見聴取会」参照）

	事 務 事 業 名	ページ
①	市民文化祭事業	P78
②	豊田ふれあいコンサート	P80
3	車屋美術館 展覧会開催事業	P82
4	文化財保存活用地域計画策定事業	P84
5	摩利支天塚・琵琶塚古墳等整備事業	P86
6	学校教育との連携事業	P88
7	県南体育館貸出業務	P90
8	プロスポーツ交流事業	P92

小山市教育委員会 点検・評価シート

令和5年度版

No. 23

1. 基本情報									
<1> 事業・業務名		市民文化祭事業			<2> 事業・業務の別		事業		
<3> 選定基準		④ その他			<4> 継続業務・新規業務の別		継続評価		
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり			<6> 担当部(局)		教育委員会		
	中項目	3-5 多彩で個性ある市民文化とスポーツのまち			<7> 担当所属		文化振興課		
	小項目	3-5-1 市民文化			<8> 担当係等		文化振興係		
	施策	文化芸術活動の発表機会の提供							
<9> 根拠法令・計画等		小山市文化芸術振興計画		<10> 関連・類似事業		小山市文化振興大会事業			
<11> 会計		一般	会計	<12> 予算科目		10 款 4 項 4 目			
<13> 実施期間		年度 ~	年度	<14> 全体事業費		千円			
<15> 実施手法		補助金・負担金・貸付金等		「その他」の場合 ()					
2. Do - 実施 -									
<16> 事業・業務の概要		毎年11月頃に約1カ月間かけて、小山市民文化祭を実施する。							
目的	<17> 事業・業務の目的	市民一人一芸術を目指し、豊かな文化の創造のため、その発表の機会と場を提供する。							
	<18> 事業・業務の対象	市内文化団体・文化芸術に携わる市民・市内学校の児童・生徒							
手段	<19> 令和4年度の活動内容	全体行事(開幕祭・ポスターコンクール)と部会行事(舞台・展示・学校)を実施する。実施にむけて、運営委員会を組織しその内容を検討する。							
	<20> 活動指標	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
	(活動した量や実績)			計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	出演・出品者数	人	3,000	—	3,000	2,465	82.2%		
実行委員会開催	回	3	3	3	3	100.0%			
成果	<21> 事業・業務の成果	3年ぶりに事業を実施することができた。新型コロナウイルス感染症流行以前(令和元年度)と比べ、実施部門数・来場者数は少ないものの、着実に市民による文化芸術発表の機会を創出した。							
	<22> 成果指標	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
	(活動の成果の量や実績)			計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	来場者数	人	10,000	—	12,000	7,457	62.1%		
実施部門数	部門	17	—	17	14	82.4%			
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度			
			千円	計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
		事業費等	千円	10,532	7,679	10,215	9,165	89.7%	
		財源内訳	国・県補助金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円			1,000	1,118	111.8%
			一般財源	千円	2,916	63	1,700	532	31.3%
		人件費	千円	7,616	7,616	7,515	7,515	100.0%	
正職員	千円 × 人工	7,616 × 1.0	7,616 × 1.0	7,515 × 1.0	7,515 × 1.0				
他の職員	千円 × 人工	×	×	×	×				

3. Check - 評価 -						
実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？		1.妥当である		
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？		1.妥当である		
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？		2.変わらずにある		
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？		1.妥当である		
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある		
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？		2.中位		
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある		
<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		2.検討は困難である				
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？		1.妥当である			
	<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)	2.改善の余地 はある	理由	コロナ禍の影響を受け、全体的な参加人数が前回は下回ってしましたが、次回以降、通常開催ができるようになった際、こうした減少傾向が常態化しないよう、はたらきかけていきたい。		
4. Action - 改善 -						
事業の改善	<34> 事業の課題・ 事業の改善点		通常開催に向けて市内文化団体および市民へ積極的な参加を呼びかける。市内小中学校との連携を築き文化祭への参加を促進する。各種印刷物の手配と校正を計画立てて行い、市民への当事業の周知に十分な時間を用いることができるよう準備と打合せを進めていく。			
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	1.拡大	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、3年ぶりの開催となった今回の事業で得たノウハウを生かしていくことで、市民に安心して参加・来場してもらえる文化祭の開催につながる。次回は、より多くの部門・団体・個人に参画してもらえるように、広報活動をはじめとする参加者のサポートに積極的に取り組みたい。	
	<36> 2次評価	教育部長	1.拡大	理由	新型コロナウイルス感染症の影響を受けるなか、存続の危機を乗り越え、活動を再開できた団体が多くあることを非常に嬉しく感じている。団体や個人が日々の練習で積み重ねた技術を発表する場を提供し、市民や子供達が素晴らしい作品に触れる機会を増やすことにより、本市の文化芸術をさらに発展できるよう支援していく。	
5. Plan - 計画 -						
事業の計画	<37> 実施計画・ 今後の方針		6月:委嘱状交付式・第1回文化祭運営委員会 8月:表彰審査委員会 9月:ポスター審査会 10月:第2回文化祭運営委員会 11月:文化祭 12月:報告書・決算書提出 1月:第3回文化祭運営委員会			
	<38> 活動・成果目標	・市民一人一芸術をめざし、市内文化団体の参加を得て充実した各種行事を実施する。 ・市民の各種行事への参加を得て地域文化の振興を図る。 ・文化団体および個人が日頃、研究・創作・練習してきたものを発表・鑑賞する。 ・文化活動をとおして地域への理解を深める。	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
				千円	10,074	10,115
			事業費等	千円	2,559	2,600
			人件費	千円	7,515	7,515

小山市教育委員会 点検・評価シート

令和5年度版

No. 18

1. 基本情報									
<1> 事業・業務名		豊田ふれあいコンサート			<2> 事業・業務の別		事業		
<3> 選定基準		① 社会環境等の状況変化により、再検証が必要と思われる事務事業			<4> 継続業務・新規業務の別		新規評価		
<5> 総合計画 基本計画 での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり			<6> 担当部(局)		教育委員会		
	中項目	3-5 多彩で個性ある市民文化とスポーツのまち			<7> 担当所属		豊田公民館		
	小項目	3-5-1 市民文化			<8> 担当係等		業務係		
	施策	文化芸術の鑑賞機会の充実							
<9> 根拠法令・計画等		第3次小山市生涯学習推進計画		<10> 関連・類似事業					
<11> 会計		一般	会計	<12> 予算科目		10 款 4 項 2 目			
<13> 実施期間		年度 ~	年度	<14> 全体事業費		千円			
<15> 実施手法		直営		「その他」の場合 ()					
2. Do - 実施 -									
<16> 事業・業務の概要		小山にゆかりのあるアーティストに出演を依頼し、コンサートを開催する。							
目的	<17> 事業・業務の目的	小山市にゆかりのあるアーティストに出演を依頼し、普段鑑賞する機会のない生演奏を地域の人々が気軽に訪れることのできる公民館において演奏会を開催することにより、小山市や音楽、公民館により親しみを持ってもらう。							
	<18> 事業・業務の対象	豊田地区内住民及び市内在住在勤者							
手段	<19> 令和4年度の活動内容	・コンサート出演者の検討及び出演依頼 ・来場者募集(広報小山11月号掲載、豊田地区全戸にチラシ配布、関係機関へのポスターの掲示) ・コンサート開催(令和4年12月10日(土)) ・来場者へのアンケートを実施							
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		開催回数	回	1	1	1	1	100.0%	
	案内チラシ配布	部	1,770	1,770	1,780	1,780	100.0%		
成果	<21> 事業・業務の成果	小山市にゆかりのあるアーティストが演奏する生の音楽に触れることで、小山市や音楽への関心を高める。							
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		来場者数	人	50	47	50	45	90.0%	
	アンケート回収数	部	47	38	45	37	82.2%		
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度			
			千円	計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
			千円	234	234	387	387	100.0%	
		事業費等	千円	35	35	35	35	100.0%	
		財源内訳	国・県補助金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
一般財源	千円	35	35	35	35	100.0%			
人件費	千円	199	199	352	352	100.0%			
	正職員	千円	7,616 × 0.018	7,616 × 0.018	7,515 × 0.046	7,515 × 0.046			
	他の職員	千円 × 人工	1,823 × 0.033	1,823 × 0.033	1,823 × 0.003	1,823 × 0.003			

3. Check – 評価 –

実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？	1.妥当である
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？	1.妥当である
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？	2.変わらずにある
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？	1.妥当である
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？	1.大きい
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		1.検討可能である	
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？	1.妥当である	
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)	2.改善の余地はある	理由 新型コロナウイルス感染症の影響により、生きた文化芸術に触れる機会が少なくなっていた中で、感染症対策等安全を優先した対策を行いながらコンサートを開催することができた。令和4年度のアンケート結果からも、来場者の満足度は高い事業となっている。来場者について高齢化傾向がみられるため、様々な年代の方にも興味を持っていただけるような開催方法や内容について検討の必要がある。	

4. Action – 改善 –

事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点	老若男女問わず様々な方に来場いただき、生きた文化芸術に触れる機会を作っていく必要がある。どのような出演者に依頼するが、また、感染症対策等の安全を踏まえた開催方法、コロナ禍により制限をかけていた集客を周知の拡大により見直していくなど、具体的に計画していく。		
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	1.拡大	理由 豊田地区の住民が気軽に参加できる身近なコンサートとして長年実施している事業である。アンケートや来場した住民の感想から満足度の高い事業であり、普段公民館に来館しない地区住民に親しみをもってもらえる良い機会となっている。来場した参加者からのアンケートを踏まえながら、今後の内容を検討するとともに、体験等聴くだけではなく実際に触れたり実践する機会を提供できるように考えてほしい。
	<36> 2次評価	教育部長	1.拡大	理由 豊田ふれあいコンサートは、小山市内の公民館事業の中でも、特出している事業と考える。特に小山市のふるさと大使など、縁のある音楽家を招き、なかなか聴くことのできない生の演奏に触れる絶好の機会を地域住民に享受しているものである。今後も、継続して事業を実施することは本より、新型コロナウイルス感染症防止により参加人数を制限していた状況を改善できるよう検討していただきたい。

5. Plan – 計画 –

事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針	令和5年度以降も引き続きコンサートを開催予定。小山市の文化芸術に造詣の深い音楽家等に出演いただき、豊田地区の教養の醸成に努める。				
	<38> 活動・成果目標	郷土にゆかりのあるアーティストの演奏会を年度内に1回開催し、多くの住民に来館いただき、音楽を通して得た来館者の満足度を高め、小山市や豊田公民館への関心を促す。	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
			千円		387	387
			事業費等	千円	35	35
			人件費	千円	352	352

小山市教育委員会 点検・評価シート

No. 26

1. 基本情報									
<1> 事業・業務名		車屋美術館 展覧会開催事業			<2> 事業・業務の別		事業		
<3> 選定基準		② 令和4年度に事業内容(対象・手段等)を見直した事務事業			<4> 継続業務・新規業務の別		継続評価		
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり			<6> 担当部(局)		教育委員会		
	中項目	3-5 多彩で個性ある市民文化とスポーツのまち			<7> 担当所属		車屋美術館		
	小項目	3-5-1 市民文化			<8> 担当係等		業務係		
	施策	展示事業の充実							
<9> 根拠法令・計画等		小山市立車屋美術館設置条例		<10> 関連・類似事業					
<11> 会計		一般	会計	<12> 予算科目		10 款 4 項 8 目			
<13> 実施期間		年度 ~	年度	<14> 全体事業費		千円			
<15> 実施手法		直営		「その他」の場合 ()					
2. Do - 実施 -									
<16> 事業・業務の概要		展示事業は当館の大きな柱となる事業である。例年、学芸員による自主企画の展覧会を年4回開催するとともに、それらの関連事業としてワークショップやギャラリートークなどの教育普及事業も合わせて実施している。							
目的	<17> 事業・業務の目的	市民が多様な芸術に触れることによって、知識や教養、楽しみを得る機会を提供する。また、地域ゆかりの作家や美術の展覧会を積極的に開催することでその顕彰や調査、研究が進み、情報と知識が美術館に蓄積され、地域美術の情報拠点としての役割も果たす。							
	<18> 事業・業務の対象	市内外を問わず、美術に興味関心を持つ子どもから一般まで。またこれから美術に興味関心を持つ可能性のある子どもから一般まで。							
手段	<19> 令和4年度の活動内容	企画展(53回展「野澤一郎が愛した美術」54回展「鈴木まもる 絵本と世界の鳥の巣展」55回展「Articulation アーティキュレーション-区切りと生成-」)と公募展「10×15の世界コンテスト展」、の4つを実施。関連事業としてアーティストトーク、ワークショップ、スタディプログラム等を実施した。							
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		展覧会開催	回	4	4	4	4	100.0%	
		展覧会関連事業及びワークショップ等の実施	回	29	26	33	33	100.0%	
成果	<21> 事業・業務の成果	普段見る機会がないさまざまな作家の作品や、小山市ゆかりの芸術家の企画や作品に触れることによって、地域の文化や多様な芸術に深い関心を持っていただくことができた。また、ワークショップやはがきコンテストなどの創作体験から想像力を高めていただく場を提供することができた。							
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
			観覧者数	人	11,000	8,557	12,000	10,122	84.4%
		満足度アンケート	%	95	96	95	95	100.0%	
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度			
				計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
			千円	23,193	20,881	22,727	22,473	98.9%	
		事業費等	千円	7,961	5,649	7,697	7,443	96.7%	
		財源内訳	国・県補助金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円	400	70	5,350	7,278	136.0%
	一般財源	千円	7,561	5,579	2,347	165	7.0%		
人件費	千円	15,232	15,232	15,030	15,030	100.0%			
	正職員	千円 × 人	7,616 × 2.0	7,616 × 2.0	7,515 × 2.0	7,515 × 2.0			
	他の職員	千円 × 人	×	×	×	×			

3. Check – 評価 –

実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？	1.妥当である
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？	1.妥当である
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？	1.増大している
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？	1.妥当である
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？	1.大きい
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		2.検討は困難である	
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？	1.妥当である	
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)		2.改善の余地はある	理由 当館の展示事業は、現状の学芸員数や配当予算、文化財改修展示室といった数々の制約があるにもかかわらず、展示内容の多様性とその質の高さ、さらに年4回という実施回数など、全てにおいて評価できるものであると自負している。ただ、さらに展覧会への集客力を高めるためには、新しく効果的な情報提供手段を検討し、すみやかに実施する必要があると考える。

4. Action – 改善 –

事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点	美術館本来の姿である、生で本物の芸術に触れる醍醐味や喜び、新たな発見を味わっていただく場として、多様で質の高い展示事業をこれからも継続して実施していきたい。また、会場となる展示室の温湿度の適切化など、作品保護には欠くことができない展示室の環境保持が、施設改修後の経年劣化により大変困難になってきている。今後の展覧会の継続的な開催のためにも、先を見越した適切な修繕を実施していく必要があり、大きな課題となっている。 さらに、敷居が高いと敬遠されがちな美術館に親しみを持っていただくための情報発信や企画なども検討したいと考える。		
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	2.変更	理由 文化財を活用した館の特性を活かし、より多くの市民が集う魅力のある展覧会の開催に努めること。また、市民のニーズを的確に捉えて、事業の内容、対象者への周知方法について考察・検討して頂きたい。
	<36> 2次評価	教育部長	2.変更	理由 小山市の文化施設として、市民誰もが気軽に芸術鑑賞の機会を得られる施設であることを心掛けていただきたい。市民の芸術文化の知識・教養の向上に資するため、今後も質の高い展覧会の開催及び多彩な関連事業の継続実施をすること。また、あらゆる市民にとって身近に感じる美術館として環境の整備にも努めること。

5. Plan – 計画 –

事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針	今後も、小山ゆかりの美術や芸術家を顕彰し、質の高い教育や楽しみ、知識共有のため、多様な美術展や教育普及事業を市民に提供し、さまざまな情報発信の方法を使い、館の情報をより多くの方々に届くように工夫を試みる。令和5年度は「横山大観展」と、「古川龍生展」などを開催する予定である。また、第9回目となる「10×15の世界コンテスト展」を開催し、例年とおり作品を公募する。また、令和6年度は2回目となる小山市ゆかりの作家「齊藤鷗舟展」等を開催する計画を立てている。				
	<38> 活動・成果目標	展覧会開催を通して小山市ゆかりの芸術や多様な美術への関心を持っていただき、その理解や発信に努める。	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
				千円	22,884	24,230
			事業費等	千円	7,854	9,200
		人件費	千円	15,030	15,030	

小山市教育委員会 点検・評価シート

No.

1. 基本情報										
<1> 事業・業務名		文化財保存活用地域計画策定事業				<2> 事業・業務の別		事業		
<3> 選定基準		④ その他				<4> 継続業務・新規業務の別		継続評価		
<5> 総合計画 基本計画 での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と 学び・文化を育むひとづくり				<6> 担当部(局)		教育委員会		
	中項目	3-5 多彩で個性ある市民文化とスポーツのまち				<7> 担当所属		文化振興課		
	小項目	3-5-2 歴史文化				<8> 担当係等		歴史のまち推進係		
	施策	文化財の保存と活用								
<9> 根拠法令・計画等		文化財保護法			<10> 関連・類似事業					
<11> 会計		一般		会計		<12> 予算科目		10 款 4 項 4 目		
<13> 実施期間		令和2 年度 ~ 令和5 年度			<14> 全体事業費		19,056 千円			
<15> 実施手法		一部委託			「その他」の場合 ()					
2. Do - 実施 -										
<16> 事業・業務の概要		平成31年4月の文化財保護法の改正により、文化庁長官の認定が法定化された「文化財保存活用地域計画」を策定するものです。								
目的	<17> 事業・業務の目的	市内文化財の保存と活用を図るための「小山市文化財保存活用地域計画」を策定する。								
	<18> 事業・業務の対象	文化財、文化財保存団体、一般市民								
手段	<19> 令和4年度の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ○小山市文化財保存活用地域計画の素案の作成 ○小山市文化財保存活用地域計画協議会の開催(2回) ○小山市文化財保存活用地域計画委員会の開催(2回) ○パブリックコメントの実施(1/13-2/3) 								
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度				
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)		
		協議会実施回数	回	2	2	2	2	100.0%		
成果	<21> 事業・業務の成果	令和4年度は、地域計画全8章のうち、第5章文化財の保存・活用に関する取組み、第6章文化財の防災・防犯に関する取組み、第7章文化財の保存・活用の推進体制の素案を作成した。								
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度				
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)		
		作成した素案	章	3	3	3	3	100.0%		
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度				
			千円	計画	実績	計画	実績	投入率(%)		
			千円	15,847	11,834	12,908	12,784	99.0%		
		事業費等	千円	8,231	4,218	5,393	5,269	97.7%		
		財源内訳	国・県補助金	千円	4,037	4,218	2,696	1,959	72.7%	
			地方債	千円						
			その他	千円						
一般財源	千円		4,194	0	2,697	3,310	122.7%			
人件費	千円	7,616	7,616	7,515	7,515	100.0%				
正職員	千円 × 人工	7,616 × 1.0	7,616 × 1.0	7,515 × 1.0	7,515 × 1.0					
他の職員		×	×	×	×					

3. Check – 評価 –

実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？	1.妥当である
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？	1.妥当である
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？	4.市民ニーズによるものではない
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？	1.妥当である
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいか？	2.中位
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？	2.向上の余地はない
<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		4.実施済み	
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？	4.該当しない	
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)	2.改善の余地はある	理由 業務委託については既に実施済みであり、業務の外部化による効率化はこれ以上は図れないと判断する。 本事業で策定する「文化財保存活用地域計画」は、地域総ぐるみで文化財を保存・活用する体制の構築を目指すものであることから、計画策定の段階から、文化財保護に市民が積極的に関わられるよう働きかける事業の実施を検討していく必要があると思われる。	

4. Action – 改善 –

事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点	地域総ぐるみでの文化財の保存と活用体制を構築するため、「小山市文化財保存活用地域計画」の策定を広く市民に周知し、体制構築のきっかけとなる効果的なイベント事業の実施を検討する。計画策定において、令和4年度にパブリックコメントを実施した結果、9件の意見が提出された。今後、計画を推進していくに当たっては、更に広く市民の関心を高め、効果的な事業の実施を図っていく必要がある。		
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由 令和2年度から進めてきた計画策定作業も令和4年度に完了し、令和5年度の国の認定に向けて、修正対応等を継続して行っている。今後は、計画に位置付けた各種事業を令和5年度から令和14年度までの10年間をかけて実施し、将来像「文化財を知って、つながることで歴史文化を継承するまち～おやま歴史文化ネットワークの構築と醸成～」のもと、計画を推進していく。
	<36> 2次評価	教育部長	3.現状維持	理由 平成31年度文化財保護法の改正により法定化されたもので、現在全国96の自治体が認定され、栃木県では、下野市(令和2年7月17日認定)、大田原市(令和2年12月18日認定)、那須塩原市(令和4年12月16日認定)が認定されている。令和5年度に計画が認定されれば、本市は県内では4例目となる。認定を受けることにより、国庫補助の活用及び補助率の加算などの優遇を受けることが可能となる。

5 Plan – 計画 –

事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針	<p>【令和5年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認定申請に向けての計画修正対応 ○文化庁への計画の認定申請(7月) ○計画書印刷製本、関係機関送付 ○計画に記載した事業の推進 <p>【令和6年度以降】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○計画に記載した事業の推進 				
	<38> 活動・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ○市民、有識者などに広く意見を求めながら、実効性のある計画を策定する。 ○地域社会における文化財の保存と活用の重要性を、広く市民に理解してもらう。 ○地域社会総がかりで、文化財の保存と活用を取り組むことができる体制を構築する。 	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
			千円	8,637		
			事業費等	千円	1,122	
			人件費	千円	7,515	

小山市教育委員会 点検・評価シート

令和5年度版

No.	25
-----	----

1. 基本情報									
<1> 事業・業務名	摩利支天塚・琵琶塚古墳等整備事業			<2> 事業・業務の別	事業				
<3> 選定基準	④ その他			<4> 継続業務・新規業務の別	継続評価				
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり		<6> 担当部(局)	教育委員会				
	中項目	3-5 多彩で個性ある市民文化とスポーツのまち		<7> 担当所属	文化振興課				
	小項目	3-5-2 歴史文化		<8> 担当係等	文化財係				
	施策	文化財の保存と活用							
<9> 根拠法令・計画等	文化財保護法		<10> 関連・類似事業	摩利支天塚・琵琶塚古墳発掘調査事業					
<11> 会計	一般 会計		<12> 予算科目	10 款 4 項 4 目					
<13> 実施期間	2 年度 ~ 10 年度		<14> 全体事業費	255,000 千円					
<15> 実施手法	補助金・負担金・貸付金等		「その他」の場合 ()						
2. Do - 実施 -									
<16> 事業・業務の概要	県内最大級の前方後円墳である摩利支天塚古墳・琵琶塚古墳及びその周辺地区を整備する。								
目的	<17> 事業・業務の目的	両古墳を整備し、史跡公園として整備する。							
	<18> 事業・業務の対象	摩利支天塚古墳・琵琶塚古墳及びその周辺地区							
手段	<19> 令和4年度の活動内容	琵琶塚古墳の保存・活用のため整備委員会及び専門部会を開催し、整備内容や実施方法を検討した。							
	<20> 活動指標 <small>(活動した量や実績)</small>	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
		会議開催回数	回	計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
			1	1	2	2	100.0%		
成果	<21> 事業・業務の成果	琵琶塚古墳の一部盛土工及び張芝工の実施。							
	<22> 成果指標 <small>(活動の成果の量や実績)</small>	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
		盛土工	㎡	計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
張芝工		㎡	-	-	1,104	1,459	132.2%		
資源	<23> 投入指標 <small>(投入するお金の量)</small>	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度		投入率(%)	
			千円	計画	実績	計画	実績		
		事業費等	千円	18,232	18,125	35,226	31,343	89.0%	
			国・県補助金	千円	3,000	2,893	20,196	16,313	80.8%
			地方債	千円	1,500	1,446	10,000	8,156	81.6%
			その他	千円	1,300	1,300	9,000	7,300	81.1%
		一般財源	千円	200	147	1,196	857	71.7%	
人件費	千円	15,232	15,232	15,030	15,030	100.0%			
正職員	千円 × 人工	7,616 × 2.0	7,616 × 2.0	7,515 × 2.0	7,515 × 2.0	/			
他の職員	千円 × 人工	×	×	×	×	/			

3. Check - 評価 -

実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？	1.妥当である
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？	1.妥当である
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？	2.変わらずにある
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？	1.妥当である
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいか？	1.大きい
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
		<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？	3.不可能である
	公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？	4.該当しない
	<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)	2.改善の余地 はある	理由 業務委託については、土木工・造園工・鳶工など既に実施済みであるが、国史跡の整備事業であるため、全面委託は不可能である。 国庫補助を導入しての整備であるため、中止・中断はできないため、効率よく事業を推進する必要がある。 また、国(文化庁)の財源にも限りがあり、全国の他事業(特に熊本城、首里城修復事業)に左右され、年度により補助額にばらつきが出ることも考えられる。

4. Action - 改善 -

事業の改善	<34> 事業の課題・ 事業の改善点	長期間に亘る事業であるため、ランニングコスト等も考慮し、効率よく整備を推進する必要がある。 また、地元住民等から成る整備委員会と学識者から成る専門部会に諮りながら事業を進める必要がある。		
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	1.拡大	理由 国庫補助及び予算の都合上、当初計画より遅延している。地元や有識者からも早急な整備の進展を望む声が多く聞かれることから、事業拡大により対応を急ぎたい。
	<36> 2次評価	教育部長	1.拡大	理由 貴重な国史跡の整備であり、慎重かつ迅速な対応が求められており、事業拡大は必要である。

5. Plan - 計画 -

事業の計画	<37> 実施計画・ 今後の方針	【令和5年度】 ○琵琶塚古墳後円部一部盛土工の実施 ○盛土工施工部の張芝工の実施 ○摩利支天塚古墳発掘調査の遺物整理作業の実施 【令和6年度】 ○琵琶塚古墳(施工場所未定)の一部盛土工の実施 ○盛土工施工部の張芝工の実施 ○摩利支天塚古墳発掘調査の報告書作成				
	<38> 活動・成果目標	○整備委員会及び専門部会等に広く意見を求めながら、効率よく実効性のある整備を行う。 ○史跡の魅力や重要性を、広く市民に理解してもらう。 ○より効果的な史跡整備を推進できる市の体制を整える。	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
				千円	65,234	65,234
				事業費等	千円	50,204
			人件費	千円	15,030	15,030

小山市教育委員会 点検・評価シート

No. 27

1. 基本情報									
<1> 事業・業務名		博物館 学校教育との連携事業			<2> 事業・業務の別		事業		
<3> 選定基準		① 社会環境等の状況変化により、再検証が必要と思われる事務事業			<4> 継続業務・新規業務の別		継続評価		
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり			<6> 担当部(局)		教育委員会		
	中項目	3-5 多彩で個性ある市民文化とスポーツのまち			<7> 担当所属		博物館		
	小項目	3-5-2 歴史文化			<8> 担当係等		業務係		
	施策	博物館の充実							
<9> 根拠法令・計画等		博物館法、市立博物館条例		<10> 関連・類似事業					
<11> 会計		一般	会計	<12> 予算科目		10 款 4 項 5 目			
<13> 実施期間		昭和59 年度 ~	年度	<14> 全体事業費		千円			
<15> 実施手法		直営		「その他」の場合 ()					
2. Do - 実施 -									
<16> 事業・業務の概要		博物館に収蔵する資料を、学校教育で活用する。							
目的	<17> 事業・業務の目的	博物館に収蔵する考古・歴史・民俗・昆虫標本といった資料を、学校での学習活動等で活用することにより、多くの児童に郷土小山の歴史や文化に対する理解を深めてもらい、郷土愛を育む機会をつくる。							
	<18> 事業・業務の対象	市内小学校・義務教育学校前期、全25校の3年生(昆虫教室・郷土学習)、6年生(歴史学習・天文教室)のすべての児童							
手段	<19> 令和4年度の活動内容	市内各学校へ前年度末に聞いた実施希望調査の結果を踏まえ、来館または学校への訪問日程を調整した。そして、バス等の交通手段を確保した上で、6年生は来館しての常設展・瓦釜跡見学と火おこし体験、3年生については昆虫標本、民俗資料を学校へ運搬して移動展示解説を実施した。また6年生の理科学習「月と太陽」の単元に合わせ「ほっしー号」を派遣して太陽観測を行った。							
	<20> 活動指標	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
	(活動した量や実績)			計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	対象校	校	104	104	100	100	100.0%		
実施率	時間	162	168	158	166	105.1%			
成果	<21> 事業・業務の成果	学校や担任教師と連携を図りながら、児童・生徒の主体的な学習意欲の向上につながる学習環境や資料を提供し、児童の学習効果を高めることができた。							
	<22> 成果指標	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
	(活動の成果の量や実績)			計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	児童数	人	6,098	6,098	6,072	6,072	100.0%		
実施率	%	100	100	100	100	100.0%			
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度			
			千円	計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
		事業費等	千円	17,909	17,507	17,679	17,027	96.3%	
		財源内訳	国・県補助金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
			一般財源	千円	1,769	1,367	1,810	1,158	64.0%
		人件費	千円	16,140	16,140	15,869	15,869	100.0%	
正職員	千円×人工	7,616 × 2.0	7,616 × 2.0	7,515 × 2.0	7,515 × 2.0				
他の職員	千円×人工	1,816 × 0.5	1,816 × 0.5	1,677 × 0.5	1,677 × 0.5				

3. Check - 評価 -						
実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？		1.妥当である		
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？		1.妥当である		
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？		2.変わらずにある		
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？		1.妥当である		
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある		
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいか？		1.大きい		
効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある			
	<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		2.検討は困難である			
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？		1.妥当である			
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)		2.改善の余地はある	理由	歴史学習や、標本や資料を持参して行う学習は、市内の全小学校、義務教育学校前期のカリキュラムに定着して40年近い実績があり、大変好評である。児童は充実感に満ちた笑顔で学習に取り組んでいる。今後は、さらに地域に即した学習ができるようにしたい。また、小学生から人気が高い太陽観測では、雨天時における対応などの改善点に配慮しながら、本事業を継続したい。		
4. Action - 改善 -						
事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点		基本的には現状のまま継続するのが望ましいと考えられるが、先に掲げた課題や改善点に留意しつつ、児童の郷土への理解がより一層深まるような方策を模索し続けたい。			
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	本事業は、郷土の自然や歴史・文化を体験できる「生きた学習」の場を提供する事業として、全国的にも注目される当館の重点事業である。今後とも博物館資料や専門職員的能力を十二分に活かし、学校との連携をより深めながら、充実した活動を継続展開していくことが重要である。	
	<36> 2次評価	教育部長	3.現状維持	理由	事業を通じて、郷土を知り、郷土を愛する心を育てていくことができる博物館の重要事業のひとつと考える。今後とも、本事業を継続することにより、「将来のまちづくり、ひとづくり」に大きく貢献することが期待できるものと考えられる。引き続き事業の充実を図ってほしい。	
5. Plan - 計画 -						
事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針		市内25校ある小学校・義務教育学校の対象の学年に対し、歴史学習・郷土学習・昆虫教室・天文教室を実施する。			
	<38> 活動・成果目標	児童の学習効果を高め、郷土に対する愛着を涵養する	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
				千円	17,801	17,801
事業費等	千円	1,932	1,932			
人件費	千円	15,869	15,869			

小山市教育委員会 点検・評価シート

令和5年度版

No.	29
-----	----

1. 基本情報											
<1> 事業・業務名		県南体育館貸出業務				<2> 事業・業務の別		業務			
<3> 選定基準		④ その他				<4> 継続業務・新規業務の別		継続評価			
<5> 総合計画 基本計画 での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり				<6> 担当部(局)		教育委員会			
	中項目	3-5 多彩で個性ある市民文化とスポーツのまち				<7> 担当所属		生涯スポーツ課			
	小項目	3-5-3 スポーツ・レクリエーション				<8> 担当係等		施設管理係			
	施策	生涯スポーツ活動の推進									
<9> 根拠法令・計画等					<10> 関連・類似事業						
<11> 会計		一般		会計		<12> 予算科目		10 款 5 項 5 目			
<13> 実施期間		年度 ~		年度		<14> 全体事業費		千円			
<15> 実施手法		指定管理者制度			「その他」の場合 ()						
2. Do - 実施 -											
<16> 事業・業務の概要		県南体育館の適正かつ効率的な、施設運営・管理									
目的	<17> 事業・業務の目的		安全で快適に利用出来るよう施設の維持管理業務を実施し、サービス向上を目的とする。								
	<18> 事業・業務の対象		県南体育館の利用者								
手段	<19> 令和4年度の活動内容		・年間を通して大会及び定期利用について、日程調整するための利用団体調整会議を開催。 ・利用者への啓発として、月間行事予定表「フィットネス」を発行する。								
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)		指標名	単位	令和3年度		令和4年度				
					計画	実績	計画	実績	達成率(%)		
			会議の実施回数	回	1	1	1	1	100.0%		
		予定表の発行件数	枚	3,120	3,120	3,120	3,120	100.0%			
成果	<21> 事業・業務の成果		県南体育館の利用者に対して、施設の特長についてよく理解してもらい、効率よく利用してもらう。								
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)		指標名	単位	令和3年度		令和4年度				
					計画	実績	計画	実績	達成率(%)		
			施設の利用人数	人	200,000	59,534	200,000	70,297	35.1%		
		施設の利用収入	千円	11,822	11,127	10,180	15,093	148.3%			
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)		コスト実績		令和3年度		令和4年度				
					計画	実績	計画	実績	投入率(%)		
					千円		79,048	74,008	80,656	72,427	89.8%
			事業費等		千円		63,816	58,776	65,626	57,397	87.5%
			財源内訳		国・県補助金	千円	28,158	28,158	28,158	28,158	100.0%
					地方債	千円					
					その他	千円	11,822	11,127	10,180	15,093	148.3%
					一般財源	千円	23,836	19,491	27,288	14,146	51.8%
		人件費	千円	15,232	15,232	15,030	15,030	100.0%			
		正職員	千円 × 人工	7,616 × 2.0	7,616 × 2.0	7,515 × 2.0	7,515 × 2.0	/			
		他の職員		×	×	×	×	/			

3. Check - 評価 -						
実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？		1.妥当である		
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？		1.妥当である		
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？		2.変わらずにある		
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？		1.妥当である		
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？		2.向上の余地はない		
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？		2.中位		
効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある			
	<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		4.実施済み			
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？		1.妥当である			
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)		2.改善の余地はある	理由	令和4年度末で市立武道館が閉鎖し、今後県南体育館の剣道場、柔道場の利用が増えることが想定されることから、施設の計画的な修繕及び市立体育館や学校夜間開放との棲み分けにより、施設の効率的な利用を促進する。		
4. Action - 改善 -						
事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点		県南体育館は開館から29年が経過し施設の老朽化に伴い、突発的な設備の不具合も生じている。点検結果により設備の状態を把握し、県への要望、協議により計画的な施設改修を図る。			
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	県南体育館の老朽化に伴い、機械設備及び備品の破損などが多く見受けられてきている。県、市共に限られた予算の中、優先順位等を決め、効果的な修繕が出来るよう、県との連絡調整を綿密に行う。	
	<36> 2次評価	教育部長	3.現状維持	理由	経年劣化が見受けられ修繕のために臨時休館となることも想定される。新たに開館した市立体育館との相互利用も検討し、利用者にとって不便が無い環境を整えていくべき。	
5. Plan - 計画 -						
事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針		団体、大会利用などの予約については前年度末の利用調整会議により決定しているが、予約の無い日時については、従来は前月20日からの予約受付開始だったが、令和5年度から専用予約に限り1年間の予約を受け付ける。			
	<38> 活動・成果目標	団体予約の件数の増加を図る。	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
				千円	85,702	85,702
				事業費等	千円	70,672
			人件費	千円	15,030	15,030

小山市教育委員会 点検・評価シート

No. 28

1. 基本情報										
<1> 事業・業務名		プロスポーツ交流事業				<2> 事業・業務の別		事業		
<3> 選定基準		④ その他				<4> 継続業務・新規業務の別		継続評価		
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり				<6> 担当部(局)		教育委員会		
	中項目	3-5 多彩で個性ある市民文化とスポーツのまち				<7> 担当所属		生涯スポーツ課		
	小項目	3-5-3 スポーツ・レクリエーション				<8> 担当係等		スポーツ振興係		
	施策	プロスポーツ交流事業								
<9> 根拠法令・計画等						<10> 関連・類似事業				
<11> 会計		一般		会計		<12> 予算科目		10 款 5 項 1 目		
<13> 実施期間		年度 ~ 年度		<14> 全体事業費				千円		
<15> 実施手法		補助金・負担金・貸付金等		「その他」の場合		()				
2. Do - 実施 -										
<16> 事業・業務の概要		小山市は栃木ゴールデンブレーブス、栃木サッカークラブ、サイクルマネジメント株式会社(宇都宮ブリツッエン)とは地域支援連携パートナー協定を締結し、プロスポーツ選手と市民の交流を図る。栃木ゴールデンブレーブス:小山市民デーの開催・野球教室の開催・地域貢献活動等。栃木サッカークラブ:小山市民デーの開催・サッカー教室の開催等。サイクルマネジメント:自転車安全運転教室の開催。サイクルフェスタの全体的な監修。								
目的	<17> 事業・業務の目的	プロのプレーを身近に感じる機会を創出し、市民デーや各種スポーツ教室を通じてプロ選手の迫力あるプレーを身近に感じてもらうことで、子どもたちに夢と希望を与えとともに競技力の向上を目指し、併せて「市民ひとり1スポーツ」の推進を図る。								
	<18> 事業・業務の対象	市民デーについては小山市民(全年齢)を対象にする。スポーツ教室は、市内小学・中学・義務教育学校の児童・生徒を対象とする。								
手段	<19> 令和4年度の活動内容	①栃木ゴールデンブレーブス 市民デー(552人観戦)/野球教室(170人参加)/OYAMAスポフェス2022 ②栃木サッカークラブ 市民デー(609人観戦)/小学校サッカー教室(市内5校実施 394人参加) ※中学校サッカー教室は中止 ③サイクルマネジメント 自転車安全教室(市内1校実施 146人参加)/2022サイクルフェスタ								
	<20> 活動指標	指標名	単位	令和3年度		令和4年度				
	(活動した量や実績)			計画	実績	計画	実績	達成率(%)		
		市民デー(野球)	1	1	0	1	1	100.0%		
		市民デー(サッカー)	1	1	1	1	1	100.0%		
成果	<21> 事業・業務の成果	市民デーについては、6月に栃木ゴールデンブレーブス、10月に栃木SCに開催いただき、ともに感染防止対策を実施しながら、多くの方に観戦いただいた。市内学校との連携事業では、野球教室をはじめ、小学校サッカー教室、自転車安全教室を実施し、児童・生徒がプロの選手とふれあい、プレーを間近で見ることができる良い機会となった。また、サイクルフェスタを開催し、地域住民のみならず県外の参加者の方にも、市の魅力を発信することができた。								
	<22> 成果指標	指標名	単位	令和3年度		令和4年度				
	(活動の成果の量や実績)			計画	実績	計画	実績	達成率(%)		
		市民デー開催(野球)	人	500	0	500	552	110.4%		
		市民デー開催(サッカー)	人	400	375	400	609	152.3%		
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度				
				計画	実績	計画	実績	投入率(%)		
			千円	4,300	4,300	6,000	6,000	100.0%		
		事業費等	千円	4,300	4,300	6,000	6,000	100.0%		
		財源内訳	国・県補助金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
一般財源	千円	4,300	4,300	6,000	6,000	100.0%				
人件費	千円	0	0	0	0					
正職員	千円 × 人	7,616 × 0.0	7,616 × 0.0	7,515 × 0.0	7,515 × 0.0					
他の職員		×	×	×	×					

3. Check – 評価 –

実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？	1.妥当である
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？	1.妥当である
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？	2.変わらずにある
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？	1.妥当である
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？	1.大きい
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
		<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？	3.不可能である
	公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？	1.妥当である
	<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)	2.改善の余地はある	理由

4. Action – 改善 –

事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点	①栃木ゴールデンブレーブス 市民デーの申込・当日の対応の円滑化を図る。また、応援する会の在り方の検討を行う。 ②栃木SC 小学校サッカー教室の実施の円滑化を図る。 ③サイクルスポーツマネジメント サイクルフェスタの運営と全体的な監修の役割を担ってもらう。			
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	「ゴールデンブレーブスを応援する会」については、ファンクラブもあり、会員数が減少傾向にある。これは、球団設立当初の目的を終えたと考えられることから、会員の正式なファンクラブへの移行も検討してもよいと考える。栃木SCについては、戦績やW杯などが市民の関心度を大きく左右することから、草の根のサッカー教室を成功させたい。
	<36> 2次評価	教育部長	3.現状維持	理由	新型コロナウイルスが5類に移行し、様々なイベントが復活する中、プロスポーツへの市民の関心も高まることから、子どもから高齢者まで楽しみにしている市民デーやサイクルフェスタの成功のため、プロスポーツ団体と協力しながら引き続き進められたい。

5. Plan – 計画 –

事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針	プロスポーツチーム3団体とも、各種事業へ、地域貢献活動に対して非常に協力的であることから、引き続き良好な関係を築いていきたい。 また、改善点があれば適時話し合いをもち解決していきたい。				
	<38> 活動・成果目標	経済支援を行っていることから、市民デーや各種教室の開催を通じて市民への還元を図るとともに、市民のスポーツに対する意識を高める。	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
			事業費等	千円	6,000	6,000
		人件費	千円	0	0	

